

立正大学博物館年報

6

平成19(2007)年度

立正大学博物館

序

平成19年度は博物館運営も通常業務に復し、常設展示に加えて上半期に企画展、下半期には特別展を企画することができた。企画展は「立正大学のあゆみ」として、旧制以来の伝統を誇る立正大学を内外に一層周知するための一助として企画し、講演会には立正大学の歴史に精通されている仏教学部准教授の安中尚史氏に依頼した。

特別展は「立正大学の海外調査展」として、博物館所蔵資料の中核を占めているネパールのティラウラコット遺跡の調査を初め、シルクロードの学術調査、仏教学部のインド各地における仏教遺跡の調査などを扱った。講演会にはかつてシルクロードの学術調査を敢行された高村弘毅学長に依頼した。

また博物館所蔵資料の基礎文献として、立正大学熊谷校地開設に先立って昭和39（1964）年に調査された、熊谷市・野原古墳群の発掘調査報告書を刊行した。野原古墳群の調査は、古墳時代の群集墳の調査として重要なものであり、出土した遺物は博物館の貴重な資料として展示されている。

平成20（2008）年3月

館長 池上 悟

序

I. 博物館の概要	(2)	III. 寄贈図書目録	(23)
(1)組織と職員			
(2)立正大学組織表			
(3)立正大学博物館規定			
(4)立正大学博物館細則			
(5)施 設			
II. 事業報告	(13)		
(1)開館日数・入館者数			
(2)出 版			
(3)資料活用			
(4)常設展示・企画・特別展示			
(5)調査・研究			
(6)教育 普及			
(7)寄贈資料			

I. 博物館の概要

(1) 組織と職員

a. 職員

館長 池上 悟
専門職員 内田勇樹

b. 運営委員

第1号委員

池上 悟(博物館長・文学部教授)

第2号委員

内田勇樹(専門職員・非常勤嘱託)

第3号委員

鈴木隆史(法学部長・法学部教授)

米林 伸(地球環境科学部長・
地球環境科学部教授)

第4号委員

横山幸永(経済研究所長・経済学部教授)

原田壽子(社会福祉研究所長・
社会福祉学部教授)

第5号委員

坂輪宣敬(博物館関係学識経験者・
仏教学部教授)

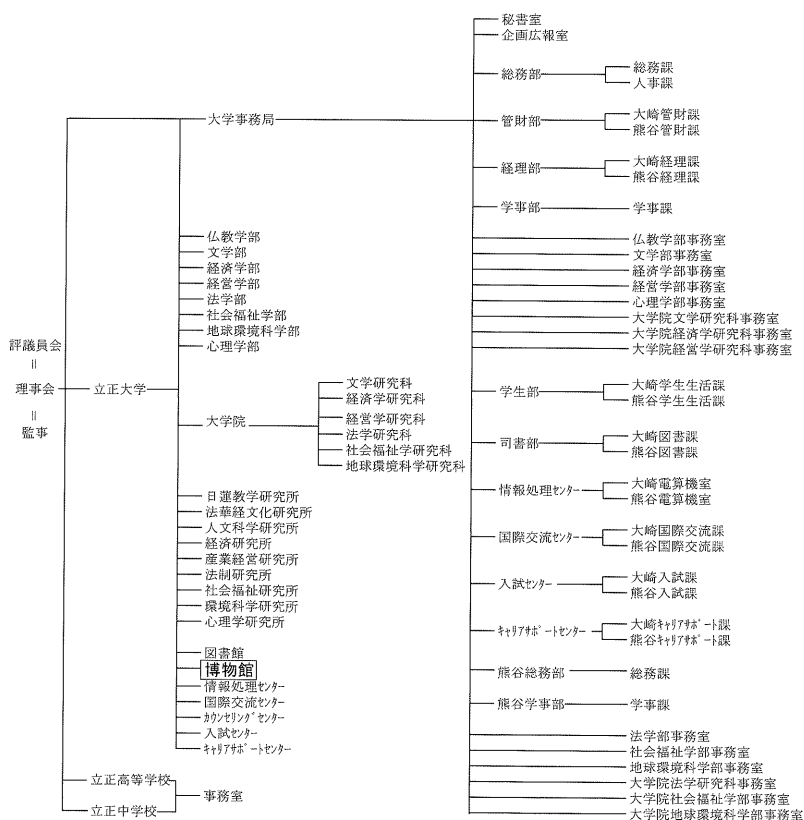
第6号委員

野沢佳美(文化史関係学識経験者・
文学部助教授)

第7号委員

島津 弘(自然史関係学識経験者・
地球環境科学部教授)

(2) 立正大学組織表



(3)立正大学博物館規定

(設定)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」(以下「博物館」という)を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料(以下「資料等」という)を収集、保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 資料等の収集、整理および保管
- 二 資料等の展示および公開
- 三 調査研究活動
- 四 調査研究成果の発表および出版
- 五 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- 六 講演会、講習会および特別展示会の開催
- 七 その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- 一 館長
- 二 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の教務を総括する。
- 3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。
- 4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。

い。

- 5 館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

- 2 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、任期は3年とする。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会(以下「委員会」という)を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者を以て構成し、学長が委嘱する。

- 一 館長
- 二 専門委員
- 三 学部長から2名
- 四 研究所長から2名
- 五 博物館学芸員関係学識経験者から1名
- 六 考古学および文化史関係学識経験者から1名
- 七 自然誌関係学識経験者から1名

- 2 館長の推薦により、前項に定める委員会のほか、学識経験者若干名を加えることができる。学識経験者委員の委嘱は学長が行う。

- 3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第三号乃至六号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を

補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が召集し、議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

- 一 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項
- 二 博物館の管理運営に関する事項
- 三 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項

(4) 立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館(以下「博物館」という)の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は、所定の手続きをとらなければならない。

- 2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

四 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項

五 博物館の予算・決算に関する事項

六 その他必要な事業に関する事

(細則)

第12条 この規定に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館規定細則によるものとする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。

- 2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書(様式2)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 資料の所蔵者または寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認

- を受け、それを証明する書類を利用許可申請書に添付しなければならない。
- 3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。
- 一 利用に際しては博物館の専門職員の支持に従うこと。
 - 二 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。
 - 三 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。
 - 四 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうち館内利用許可書(様式2)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会(以下「委員会」という)の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。
 - 五 本条第1項による利用許可を受けた者が、当該資料を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

- 第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。
- 2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。
- 一 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、

- 学術および文化等に関する事業
 - 二 博物館法(昭和26年法律第285号)に規定する博物館等の行う事業
 - 三 学術研究
 - 四 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき
- 3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

- 第9条 資料などの貸出を受けようとする者は、館外貸出許可申請書(様式3)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。
- 2 館長は前項の貸出許可申請書(様式4)の提出があったときは、審査のうち館外貸出許可書(様式4)を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。
- 3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。
- 4 本条第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

- 第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。
- 2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項一号、二号および四号のいずれかに

該当する場合は、貸出料金を全額免除する。

- 3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書(様式5)寄託申込書(様式6)に記入のうえ、館長に提出するものとする。

- 2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない

い。

- 3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して該当資料の受領証(様式7)・受託証(様式8)を交付するものとする。
- 4 館長は、寄託を受けた資料等について十分な注意を持って保管しなければならない。

(細則の改廃)

第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

(附則)

- 1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。
- 2 この細則は平成14年4月1日から施行する。
- 3 この細則は平成15年4月1日から施行する。

立正大学博物館資料
館内利用許可申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

立正大学博物館資料
館内利用許可書

年 月 日

様
立正大学博物館長 印

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用を許可します。

記

下記のとおり立正大学博物館資料の館内利用をしたいので申請します。

記

利 用 目 的				
利 用 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 区 分	閲覧・模写・模造・撮影・その他（ ）			
利 用 期 間	年 月 日（ ）から 年 月 日（ ）まで			
利 用 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、借用資料については貸与者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

利 用 目 的				
利 用 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
利 用 区 分	閲覧・模写・模造・撮影・その他（ ）			
利 用 期 間	年 月 日（ ）から 年 月 日（ ）まで			
利 用 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料館内利用の際に提示し、利用期間中携帯してください。

立正大学博物館資料
館外貸出許可申請書

年 月 日

立正大学博物館長 様

住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話

第 号

立正大学博物館資料
館外貸出許可書

年 月 日

様
立正大学博物館長 印

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを許可します。

下記のとおり立正大学博物館資料の館外貸出しを受けたいので申請します。

記

利 用 的				
貸 出 資 料	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ 寄託資料については寄託者の承認書を、著作権者がある資料については著作権者の承認書を添付してください。

記

利 用 的	資 料 番 号	資 料 名	数 量	備 考
貸 出 資 料				
貸 出 期 間	年 月 日 () から 年 月 日 () まで			
利 用 場 所				
利 用 方 法				
輸 送 方 法				
取 扱 責 任 者				

※ この許可書は、立正大学博物館資料の館外貸出しを受ける際に提示してください。

様式5

受付番号

博物館資料寄贈申請書

立正大学博物館長 様

申請者 住所
氏名
電話

印

年 月 日

様式6

受付番号

博物館資料寄託申請書

立正大学博物館長 様

申請者 住所
氏名
電話

印

年 月 日

下記のとおり博物館資料として寄贈したいので申請します。

記

資 料 名	数 量	備 考

下記のとおり博物館資料として寄託したいので申請します。

記

寄 託 期 間	年 月 日 () から	年 月 日 () まで
寄 託 資 料	資 料 名	数 量

様式7

第 号

博物館資料受領証

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

様式8

第 号

博物館資料受託証

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

下記のとおり博物館資料として受領しました。

記

資 料 名	数 量	備 考

下記のとおり博物館資料として受託しました。

記

受 託 期 間	年 月 日 () から	年 月 日 () まで
受 託 資 料	資 料 名	数 量

博物館資料借用書

年 月 日

様

立正大学博物館長 印

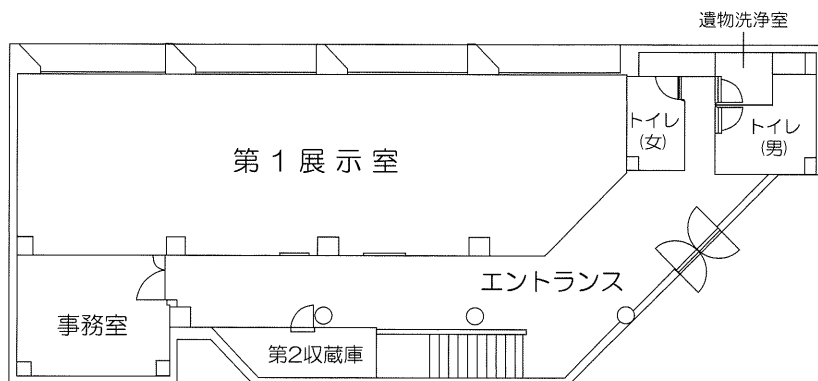
下記のとおり博物館資料として借用しました。

記

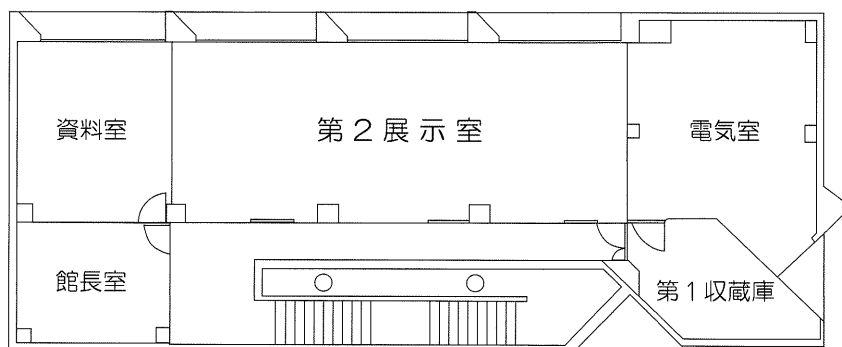
使用期間	平成 年 月 日 () から平成 年 月 日 () まで			
借用理由				
	借用資料	資料名	数量	備考
取扱担当者				

※ この借用書は、博物館資料の返却時に返していただきますので、大切に保管してください。

(5) 施設



1階 平面図



2階 平面図

●建物

所 在……………埼玉県熊谷市万吉1700
 建築面積……………376.8㎡
 構 造……………鉄筋コンクリート造 2階建

●各室面積一覧

(1階)

第1展示室……………93.88㎡
 事 務 室……………17.10㎡
 第2収蔵庫……………3.22㎡
 ト イ レ……………11.01㎡
 遺物洗浄室……………2.26㎡
 エントランス……………45.64㎡

(2階)

第2展示室……………71.22㎡
 館 長 室……………16.98㎡
 資 料 室……………23.89㎡
 第1収蔵庫……………12.30㎡
 電 気 室……………39.00㎡

●各室仕様

(第1展示室・事務室)

床……………タイルカーペット敷
 壁……………ビニールクロス貼り
 天井……………ミネラートン

(第2展示室)

床……………タイルカーペット敷

壁……………ビニールクロス貼り

天井……………ミネラートン

(館長室・資料室)

床……………タイルカーペット敷

壁……………ビニールクロス貼り

天井……………ジブトーン

●電気設備

受電設備……………6.6KV

変圧器設備……………電灯-100KVA 動力-80KVA

照明設備……………展示室-ハロゲンランプ使用
 館長室・事務室・資料室-蛍光灯使用

●防犯・防災設備

防犯設備……………各室熱センサー取付、非常通報設備

ITV設備……………CCDカメラ4台、展示室等監視

自動火災

報知設備……………P型1級5回線

消化設備……………粉末消火器9台

●空調設備

空調機……………空冷式、パッケージエアコン(個別)

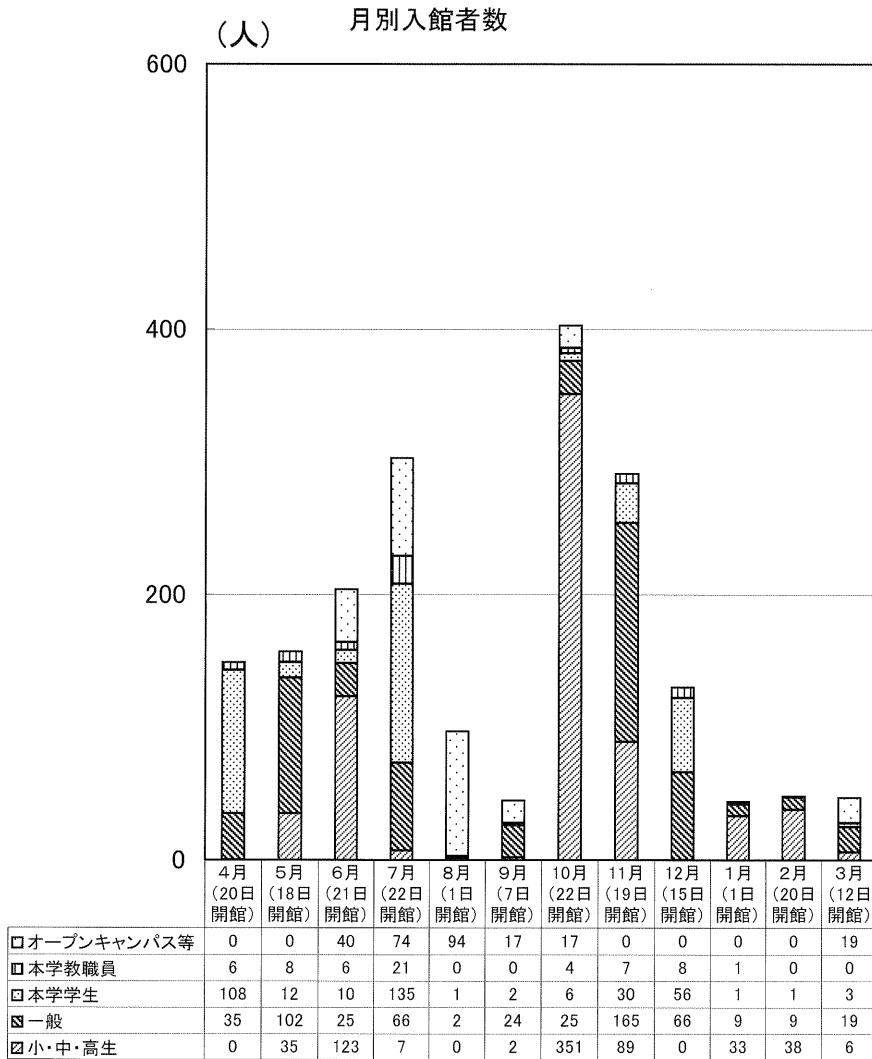
●給排水設備

給水設備……………市水道使用

給湯設備……………貯湯式電気湯沸器

II. 事業報告

(1)開館日数・入館者数



平成19年4月1日から平成20年3月31日の間で、博物館は191日開館した。本来、休館日(火・日曜日)および大学休業日である夏・春期休暇中は開館していないが、外部からの要望もあり出来る限り開館に努めた。

入館者数は、4月が計149人、5月が計157人、6月が計204人、7月が計356人、8月が計97人、9月が計45人、10月が計403人、11月が

計291人、12月が計130人、1月が計44人、2月が計48人、3月が計47人、合計1,971人であった。

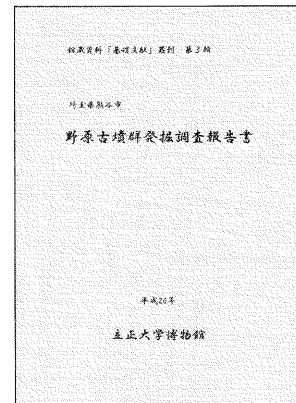
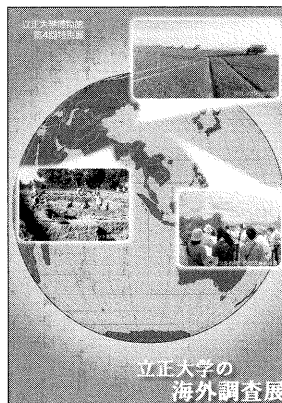
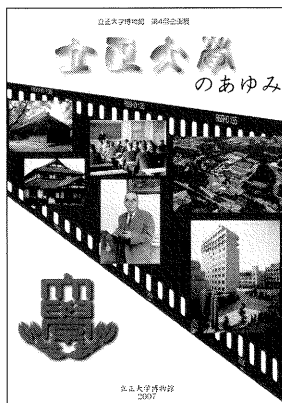
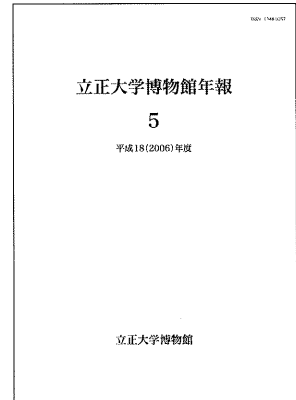
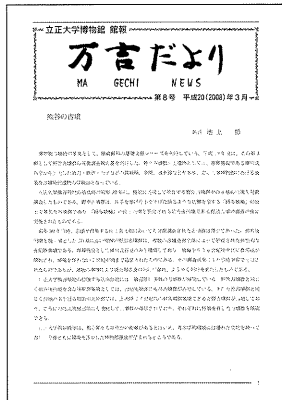
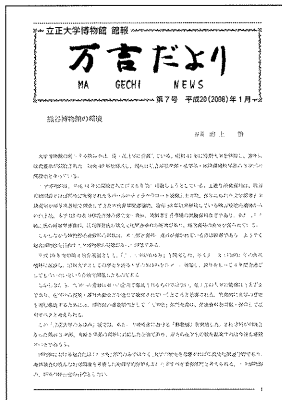
その内訳は、表1が示すように、小・中・高校生が計684人、一般が計547人、本学学生が計365人、本学教職員が計114人、オープンキャンパス時の入館者数が計261人であった。

(2) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・立正大学博物館報『万吉だより』第7号
- ・立正大学博物館報『万吉だより』第8号
- ・立正大学博物館年報 第5号

- ・館蔵資料「基礎」文献第3輯『野原古墳群発掘調査報告書』
- ・『立正大学のあゆみ』展示図録
- ・『立正大学の海外調査展』展示図録



(3) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館に貸出した。

- ・平成19年8月8日（水）～12月20日（木）三鷹市教育委員会・調布市郷土博物館・明治大学校地内遺跡調査団
- 吉田格コレクション18点（西之台遺跡A・B地点出土石器4点・熊ノ郷遺跡出土石器2点・殿ヶ谷遺跡出土石器12点）
- ・平成19年9月18日（火）～12月31日（月）品川区立品川歴史館

吉田格コレクション8点（下沼部貝塚出土土器6点・赤塚城址貝塚出土土器2点）

- ・平成19年9月28日（金）～平成20年1月25日（金）

宮代町郷土資料館

吉田格コレクション4点（称名寺貝塚出土土器2点・称名寺貝塚出土土器6×7フィルム2枚）

(4)常設展示・企画・特別展示

1.常 設

ー第1展示室(1F)ー

眞鍋孝志氏(日本古鐘研究会会長)より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とする撫石庵コレクションおよび立正大学考古学研究室が1958年～1980年にかけて文部省(現文部科学省)の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窠業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示されている。

この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品が展示され、縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では埼玉県野原古墳群の出土資料を展示している。

また、熊谷キャンパスにおける施設の新築などに際して、法(文化財保護法)によって定められた遺跡の発掘調査を実施しており、その折、発掘された資料を展示している。

古代から近世にかけては、千葉県九十九坊廃寺・長熊廃寺跡出土品、神奈川県下出土火葬骨蔵器、板碑、東京都増上寺徳川将軍家関係墳墓出土の一字一石経などを展示している。

撫石庵コレクションは、日本をはじめ、朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具(鐘・鐸)のほか、金銅釈迦如来立像などが展示されている。

とくに、伝樞原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として10指に入るもので、極めて貴重な資料である。この伝樞原市出土鐘を復元した鐘が新たに寄贈された。

ー第2展示室(2F)ー

吉田格コレクション、樺太出土資料、ネパール・ティラウラコット出土資料群を展示している。

吉田格コレクションは、吉田 格氏(立正大学

専門部地歴科・昭和16(1941)年卒)寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式、後期の称名寺式は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料(鹿角)は縄文文化の研究上、きわめて重要な資料である。

また、本草学者・伊藤圭介(日本最初の理学博士)蒐集の石器は『日本産物誌』明治9(1876)年に収められているものであり、嘉永5(1852)年の箱書きを持つ収蔵箱に収納されている石器とともに、極めて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

樺太出土資料は、久保常晴氏(元本学名誉教授)寄贈のコレクションで、同氏が1930年代に樺太の地を踏査された際に収集されたものである。樺太出土資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

ネパール・ティラウラコット出土資料群は、1967年～1977年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘された資料であり、とくに日・ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城ーカピラ城跡の有力な比定遺跡として世界の学界に知られていた。その地を10年間にわたって発掘調査した結果、カピラ城跡の最有力遺跡として注目されるにいたっている。

東西約400m、南北約480mの方形の城跡内に7つの遺丘が存在し、そのうちの2箇所を発掘して得られた資料である。

2.企画・特別展示

第4回企画展

「立正大学のあゆみ」

◆期間：平成19年7月2日(月)～7月29日(日)

◆内容：第4回企画展として「立正大学のあゆみ」を開催した。

立正大学は、その淵源を飯高檀林(現千葉県匝瑳市飯高)に求めることができる。飯高檀林は日蓮宗の学問所として天正8(1580)年に創設され、以降明治8(1875)年に廃止となるまでの295年間、諸檀林の最高所として多くの学僧を送り出してきた。

日蓮宗では、明治5(1872)年に従来の諸檀林廃止を決定し、東京の芝・二本榎承教寺(現東京都港区高輪)に日蓮宗小教院(のちに宗教院と改称)を設置し、諸宗に先駆け一宗独立の教育機関を創設した。この明治5年をもって立正大学の創立とし、現在135周年を迎える。

展示では、1建学期・2日蓮宗大学林時代・3旧制立正大学時代・4新制立正大学時代・5現在の立正大学の5つのコーナー展示を行い、卒業アルバムや写真を使って展示を行った。

また、立正大学の総合大学を目指し、大学発展に大きく関連された石橋湛山先生(立正大学第16代学長)にスポットを当て、紹介した。

また、新たな試みとして大崎校舎移動展を開催した。これは、立正大学の四年一貫教育政策のもと大崎校舎には「仏教・文・経営・経済・心理学部」の5学部が、熊谷校舎には「社会福祉・法学・地球環境科学部」の3学部が設置されることとなり、熊谷校舎に来る機会が少ない大崎校舎の在學生に展示内容を見てもらうことを目的として開催したものである。

展示は大崎校舎5号館1階フロアの壁面ギャラリースペースを使用し、パネルのみの展示を行った。



第4回企画展チラシ

今後も企画展・特別展の開催の際には、大崎校舎の移動展示を行う予定である。



安中尚史氏による講演の様子

◆講演会

日時：7月21日(土) 14:00～15:30

場所：熊谷校舎1号館3階第1会議室

講演 「立正大学の淵源を求めて」

講師 安中尚史(仏教学部准教授)

第4回特別展

「立正大学の海外調査展」

◆期間：平成19年12月3日(月)～12月21日(金)

◆内容：第4回特別展として「立正大学の海外調査展」を開催した。立正大学では、これまでに様々な海外調査を行っている。その中で「タクリマカン沙漠」「仏教文化研修」「ネパール・ティラウラコット遺跡調査」について紹介した。

タクリマカン沙漠の調査は、平成元(1989)年の夏から、タクリマカン沙漠地域に点在するオアシスに生活する人々と、水との関わりや沙漠化とどういう関係にあるのかを目的として、立正大学・新疆大学・中国科学院と合同シルクロード踏査隊(総隊長：高村弘毅)が組織され実施されたものである。

今回の特別展では、その調査の踏査ルートを紹介し、オアシスに暮らす人々の生活や古代遺跡などを写真や関連書籍により紹介した。

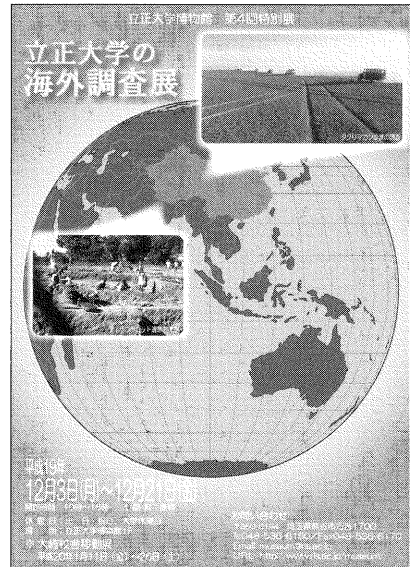
次に、仏教文化研修についてであるが、この研修は、平成6(1994)年に始まった仏教学部のフィールドワーク研修調査である。

仏教学部では、文献学を中心に講義などで学習したアジア諸地域の仏教の特徴をより深く理解するため、毎年、アジア等の現存する仏教遺跡や史跡に赴き、自分で体感することを目的としてこの研修が行われている。これまでに、14カ国の国々を視察している。

今回の特別展では、その成果報告書や研修模様の写真などを展示して紹介した。

次に、ティラウラコット遺跡の紹介であるが、本遺跡は、昭和42(1967)年～昭和52(1977)年にかけて立正大学インド・ネパール仏跡調査団によって調査された遺跡である。

ティラウラコット遺跡については、当博物館第2回特別展「釈迦の故郷」(会期：平成16年10月25日～11月27日)で取り上げたが、



第4回特別展チラシ

今回の特別展では、前回紹介できなかった遺物や、写真を新たに展示して紹介した。

また、大崎校舎にてパネルによる移動展示も行った。



高村弘毅学長による講演

◆講演会

日時：平成20年1月17日(木) 18:00～19:30

場所：大崎校舎11号館

講演「シルクロードの古代オアシス衰退の謎」

講師 高村弘毅(立正大学学長・地球環境科学部教授)

(5)調査・研究

(1)半鐘

半鐘は、総高56.4cm、口径33.0cm、口唇部の厚さ2.2cmを測る。色調は、淡黒褐色を呈する。材質は青銅製であり、銘文は鑄刻されていない。

龍頭は、高さ11.8cm、笠形部と接するところで最大径3.5cmを測る。形は、一般的な2頭の龍を背中合わせにつけ、中央頂部に宝珠を配するものである。また、笠形部頂部中央には、龍頭と平行して幅4.0cm、奥行9.0mm、最大高5.0mmの鑄口の痕跡がみられる。

鐘身には、1区内4段4列の乳が合計64個並んでいる。乳の大きさは、高さ1.4cm、鐘身と接する所で最大径1.4cmを測る。また、龍頭と平行して撞座が2ヶ所配される。撞座は、最大径6.2cmを測り、複弁16葉蓮華文を呈する。その中に径約3.0mmの珠文が巡り、中房

には連子を表現した9つの珠文がみられる。

池の間、草の間には特に装飾はされず、駒の爪下から22.2cmの所に粗雑に整形された鑄継ぎ痕がみられる。

本半鐘は、銘文が鑄刻されず、年代は不明であるが、近世の作品と考えられる。立正大学博物館に所蔵される近世の半鐘は、今回報告する半鐘を含め3口あり、そのうちの2口は、安光寺半鐘(寛延元(1748)年)と臨行寺半鐘(寛政七(1795)年)の作品である(『立正大学博物館年報』4(平成18年3月)及び『撫石庵コレクション』(平成12年1月)で報告)。今回報告する半鐘は、安光寺半鐘の形態に近いものであるが、大きさが一回り大きく、各部の形態の相違から異なる鑄物師の作品であることは明瞭である。今後半鐘の調査を進め比較検討を行うことを課題としたい。

(博物館学芸員 内田勇樹)

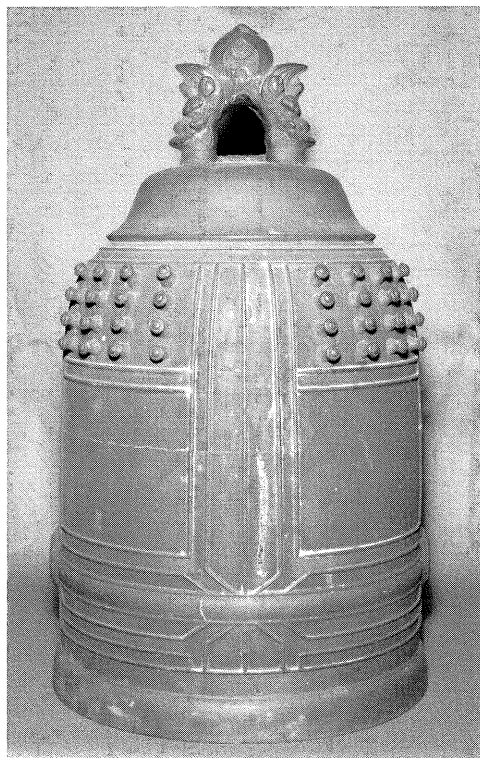
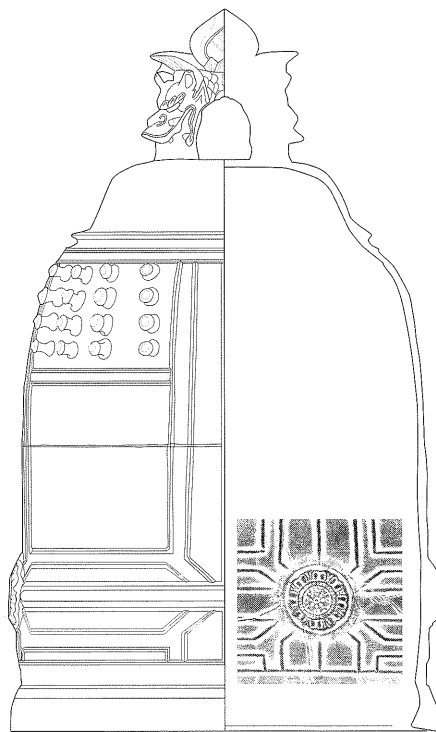


写真 半鐘



実測図

(2) 資料調査

平成20年3月20日(水)～22日(土)にかけて、立正大学博物館所蔵の梵鐘に鐫刻されている鋳物師大西氏と、粉川氏の資料比較調査のために、岩手県陸前高田市、宮城県仙台市、福島県福島市を訪れた。

立正大学博物館所蔵の長徳寺鐘には「大西五郎八貞清作」と鐫刻されており、この大西五郎八貞清(貞八)は宮城県仙台を中心に1740年ごろに活躍した鋳物師である。

長徳寺は、現在岩手県陸前高田市横田町三日市に所在する寺院である。当館所蔵の鐘は戦時中供出され、終戦を迎えその後行方が不明となっていたが、眞鍋孝志氏が蒐集されて現在立正大学博物館に寄贈され展示している。

現在、長徳寺には戦後新たに作られた梵鐘が鐘楼に懸けられているが、その梵鐘には戦時中に供出された鐘(現立正大学博物館所蔵鐘)の銘文が刻まれている。

大西五郎八貞清(貞八)の作品は、坪井良平著『梵鐘と考古学』(平成元年 ビジネス教育出版社)に収められている「宮城県史抄出江戸時代鋳物師名譜」によると4作品ある。仙台市に3口(林香院(享保18(1733)年銘)・万日堂(元文4(1739)年銘)・保春院(元文5(1740)年銘))、多賀城市に1口(宝国寺(延享2(1745)年銘))が挙げられているが、いずれも戦時中に供出され現在見ることは出来なかった。

次に粉川鋳物師の作品の実見のため、福島県福島市を訪れた。

立正大学博物館は、「粉川市正作」と鐫刻された半鐘を1口所蔵している(『立正大学博物館年報4』(平成18年3月)で報告)。福島市にある粉川鋳物師の作品は、「粉川松之助」であり粉川市正より後の鋳物師である。福島市の粉川鋳物師関連としては、福島市河股城跡から鋳造遺構が検出され、鋳型などが出土している。こ

の鋳型の中で現存する半鐘の撞座と一致するものがあり、非常に貴重な出土例として知られているのが福島市立子山一圓寺の半鐘である。本堂の軒に懸けられ詳細な測量は出来なかったが、撞座径約7.0cm、口径約30.0cm、高さ約61.0cmの大きさであった。撞座は、単弁16葉蓮華文である。その蓮華文の中に、蓮の蕾を表現したと思われる左振り文を配す。また、下帯部分には唐草文が巡っている。

銘文は1区に「奥羽伊達郡立子山邑／當山／信誠坊日近代／寄附主／惣檀中／大施主／野寄理惣次」、3区に「文正焉五土午歳／十月十三日／世話人／高橋仙右エ門／鋳物師／江川松之助粉川松之助作」と鐫刻されている。またそれぞれ1区と2区、3区と4区の間の縦帯の部分に「南無妙法蓮華經一圓寺」、「南妙法蓮華經松尾山」と陽鑄されている。

その他に、福島市川俣町小神泉福寺、同川俣町玉泉寺にも同名鋳物師の半鐘が現存している。泉福寺の半鐘は、撞座径約5.6cm、口径約30.0cm、高さ約60.0cmの大きさであった。撞座は複弁8葉蓮華文で中に「卍」を鐫刻している。また、草の間には蓮の花が陽鑄されている。

銘文は、1区に「小神村／泉福寺／恭純代／世話人／吉蔵」、2区に「地金寄進／惣村中」、3区に「江戸／粉川松之助作」、4区に「寄進／甚五郎／源四郎／茂兵衛／世話人／重吉／源助／周助／四右衛門／忠助」、1区と4区の間の縦帯の部分に「文政七年甲申八月吉日」と鐫刻されている。

また、玉泉寺の半鐘は、撞座径約5.5cm、口径約28.3cm高さ約50.0cmの大きさであった。撞座は複弁8葉蓮華文で、中に蓮子を現す珠文を9つ配する。また、下帯部分に唐草文を配している。

銘文は、「冶工／鍋屋勘兵衛／同／粉川松之助作」「奥羽伊達郡小手庄／町小網木村／花林

山／玉泉禪寺／十四代慧吟代」「施主中町／橋本伴蔵／文政四年／八月吉日」

この粉川松之助国信は、立正大学博物館所蔵半鐘に鑄刻される粉川市正(藤原宗次)からおおよそ100年後に活躍した鋳物師である。

粉川松之助については、高橋圭次氏(「河股城跡の粉川松之助鋳造工房跡」『梵鐘』第16号(平成15年日本古鐘研究会)が報告をしている。それによれば、粉川松之助が河股城で創業していた期間は、文政4(1822)～13(1835)年の10年間で、河股城跡鋳造工房は出吹(出先にて鋳造を行うこと)で江戸神田鍋屋町に拠点を置いていた。江戸で鋳造を行った作品には「粉川市正国信」と刻まれ、「松之助」の名は出吹の時に使われたものであるとしている。

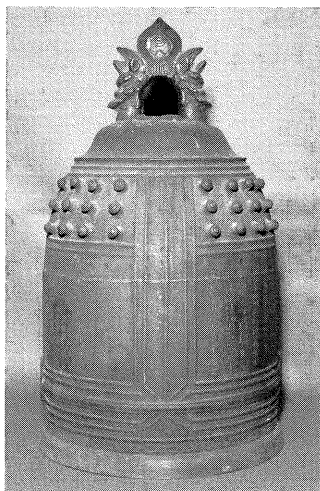
立正大学博物館所蔵の粉川鋳物師の半鐘はやや寸胴な形を呈するが、今回実見した粉川松之助の半鐘は、細身の形をしている。また、撞座に関しても一般的な複弁8葉蓮華文に蓮子を現す珠文を

配するものだけでなく「卍」や「蕾」を表現した左振り文などの様々なものがあった。

江戸期の梵鐘はその多くが戦時中の金属回収令に伴い消失してしまっているため詳細は不明である。梵鐘については、その撞座によって鋳物師の世代の違いがみられるが、今回の調査によって半鐘においては、大きさ・形においても違いがあることが明確となった。

今後は、他の鋳物師などの作品も踏まえて粉川鋳物師の歴史を探っていきたいと思う。

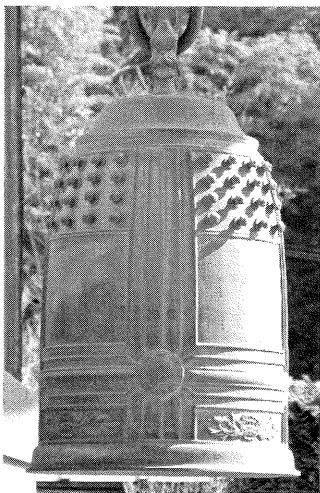
(立正大学博物館学芸員 内田)



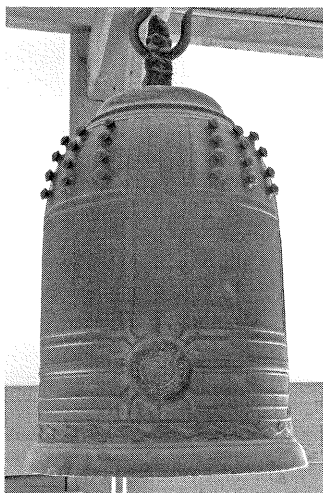
安光寺半鐘



一圓寺半鐘



泉福寺半鐘



玉泉寺半鐘

(6)教育 普及

平成19年7月30日(月)から8月4日(土)及び9月10日(月)から15日(土)の2回にわたって、文学部松原典明講師・学芸員内田勇樹で分担して館務実習を行った。

(実習内容)

ー第1回ー

7月30日(月)

- ・ 午前の部
館長挨拶・館務実習の説明
館の概要説明・館内施設の見学
文化史関係講演
(講師 高橋 一夫氏)

- ・ 午後の部
台帳カード作成

7月31日(火)

- ・ 台帳カード作成・写真撮影

8月1日(水)

- ・ 台帳カード作成・写真撮影

8月2日(木)

- ・ 午前の部
自然史関係実習
(講師 島津 弘先生)
- ・ 午後の部
自然史関係実習
(講師 島津 弘先生)

8月3日(金)

- ・ パネル作成

8月4日(土)

- ・ 午前の部
パネル作成
- ・ 午後の部
実習反省会
実習に参加して

実習生：20名(文学部哲学科3名、文学部史学科7名、文学部文学科1名、地球環境科学部環境システム学科5名、地球環境科学部地理学科4名)

ー第2回ー

9月10日(月)

- ・ 午前の部
館長挨拶・館務実習の説明
館の概要説明・館内施設の見学
文化史関係講演
(講師 米谷 博氏)

- ・ 午後の部
台帳カード作成

9月11日(火)

- ・ 台帳カード作成・写真撮影

9月12日(水)

- ・ 台帳カード作成・写真撮影

9月13日(木)

- ・ 午前の部
自然史関係実習
(講師 菊池 隆男先生)
- ・ 午後の部
自然史関係実習
(講師 菊池 隆男先生)

9月14日(金)

- ・ パネル作成

9月15日(土)

- ・ 午前の部
パネル作成
- ・ 午後の部
実習反省会
実習に参加して

(7)寄贈資料

◆三宅敏之氏寄贈資料

三宅敏之氏は、昭和20(1945)年8月東京文理科大学に復学されてから、平安時代の文化史研究を志された。指導教授の1人である木代修一先生より、専攻分野の指導を石田茂作先生に頂くように示唆せられて以来、石田先生に師事し、「埋経(経塚)」の考古学的・仏教文化史的研究を主として研究をされてきた。

立正大学の考古学的な特色の一つは、石田茂作先生の指導により、久保常晴博士・坂詰秀一博士により展開された仏教考古学である。

三宅敏之氏が立正大学に講師として出講されたのは、昭和55(1980)年4月のことである。石田茂作先生より仏教考古学の教育と研究を標榜している立正大学では、石田先生の後の仏教

考古学の担当者として講義していただき、以後19年間にわたり、大学院と文学部で「歴史考古学特講」「考古学特講」を担当していただいた。立正大学では、連年にわたり「経塚論」を展開され、多くの後進を指導された。

平成18年3月(享年81歳)に他界され、ご遺族の方から三宅敏之氏が長年に渡り蒐集された資料のなかでも、特に経塚関係の資料を中心に寄贈の申し出を頂き、博物館で「三宅敏之氏経塚関係資料」として受領することとなった。

「三宅敏之氏経塚関係資料」の詳細な資料整理は今後追って行い別途資料目録を作成することとし、今回は資料の点数を報告する。

三宅敏之氏経塚関係資料(内容)

遺跡調査報告書……………	531冊
雑誌・本・報告書……………	1,515冊
単行本等……………	257冊
会報・概報・年報・紀要など……………	131冊
資料集・論文集など……………	63冊
原稿……………	86枚
抜き刷り……………	719冊
遺跡調査関連資料(図面等)……………	505本

地図……………	549枚
写真	
スライド……………	3,612枚
プリントフィルム……………	7,630枚
ネガフィルム……………	857枚
アルバム……………	164冊
その他資料……………	44,996点

Ⅲ. 寄贈図書目録 (2003.4 ～ 2004.3)

<青森県>

青森県教育委員会

- ・青森県史だより 第16号

八戸市教育委員会

- ・掘りdayはちのへ 八戸市埋蔵文化財ニュース 第10号

八戸市埋蔵文化財調査報告書

- ・第114集 八戸市内遺跡発掘調査報告書24
- ・第115集 八幡遺跡－発掘調査報告書IV－
- ・八戸市南郷地区埋蔵文化財調査報告書 第4集 荒谷遺跡

<宮城県>

東北大学史料館

- ・東北大学史料館だより No.6・7・8

山元町教育委員会

山元町文化財調査報告書

- ・第1集 合戦原遺跡
- ・第2集 狐塚遺跡
- ・第3集 北経塚遺跡

山元町歴史民俗資料館

- ・山元町歴史民俗資料館収蔵資料目録1－木村實こけしコレクション－
- ・第57回企画展図録 亘理郡の古墳時代～古墳と生きたひとびと～

<福島県>

(財)福島県文化振興事業団 福島文化財センター白河館

- ・まほろん通信 Vol.24～27

<栃木県>

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

- ・栃木県立風土記の丘資料館年報 第21号
- ・第21回秋季特別展 下野国分寺展－発掘25年の成果－

<群馬県>

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- ・年報 26
- ・遺跡に学ぶ 第29・30号
- ・埋文群馬 No.46・47

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書

- ・第407集 総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡
- ・第408集 長野原一本松遺跡 (2)
- ・第410集 上郷岡原遺跡 (1)
- ・第411集 福沢新田遺跡・細谷合ノ谷遺跡・細谷八幡遺跡
- ・第412集 中郷田尻遺跡
- ・第413集 前道下遺跡 (1)
- ・第414集 塚下遺跡 (2)・上柳沢遺跡
- ・第415集 南原間遺跡
- ・第416集 下大久保遺跡
- ・第417集 向矢部遺跡
- ・第418集 上武道路・旧石器時代遺跡群 (1)
- ・第419集 大鷲遺跡
- ・第420集 亀泉西久保II遺跡 荻窪南田遺跡
- ・第421集 荒砥北三木堂II遺跡
- ・第422集 中郷遺跡 (1)
- ・第423集 堤沼上遺跡
- ・第424集 前橋城三の丸遺跡
- ・第425集 石橋地藏久保遺跡
- ・第426集 成塚向山古墳群
- ・第427集 白井十二遺跡
- ・第428集 書上遺跡
- ・第430集 天ヶ堤遺跡 (2)
- ・第431集 大上遺跡II
- ・第432集 楡木II遺跡 (1)
- ・第434集 大上遺跡I
- ・第435集 福島飯塚遺跡 (2)

- ・第440集 上ノ平 I 遺跡 (1)
 - ・第443集 上強戸遺跡群
- 安中市ふるさと学習館
- ・薔薇の詩人－大手拓次の生涯－

＜埼玉県＞

上尾市教育委員会

- ・上尾の文化財保護年報 平成18年度
上尾市文化財調査報告
- ・第81集 上尾市指定有形文化財 平方村石倉
文書目録上尾宿助郷関係（壺丁目村）文書目録
- ・第82集 領家・宮下遺跡 第1～3次調査
- ・第83集 埼玉県上尾市 平方公民館所蔵の
川船調査

上尾市遺跡調査会調査報告書

- ・第34集 雨沼遺跡
- ・第35集 袋 I 遺跡

朝霞市博物館

- ・朝霞市博物館要覧 第5号
- ・朝霞市博物館紀要 第10号
- ・第22回企画展 描かれた朝霞～絵図・地図
に見る郷土の風景～

跡見学園女子大学花溪記念資料館学芸員課程

- ・にいくら No.12

入間市博物館

- ・入間市博物館紀要 第7号
- ・NEWS－ALIT 第39号～第43号
- ・一人でも多くの市民に知ってもらいたい企画展 『入間を創った人たち～あの日、あの時、あの時代～』

浦和くらしの博物館民家園

- ・みんなえんだより 第31号・32号・33号

岡部町教育委員会

岡部町埋蔵文化財調査報告書

- ・第11集 町内遺跡VI

桶川市教育委員会

- ・後谷遺跡 第4次発掘調査報告書 第3分冊

春日部市教育委員会

- ・春日部市庄和町史編さん資料 (14) 原始・古代資料 一考古一

春日部市埋蔵文化財発掘調査報告書

- ・第2集 塚内14号墳－埼玉斎場拡張に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－
- ・第3集 貝の内遺跡2.20.21.22.23.24地点
小淵山下遺跡4次地点

川口市立科学館

- ・年報 平成17年度

川越市教育委員会

- ・元町二丁目井上家文書目録
- ・川越市山田地区民具調査報告書鎌倉家の民具

川越市立博物館

- ・渡辺刀水収集文書目録
- ・博物館だより 第51号・52号
- ・子どもの世界 一祝いと遊び一
- ・第30回企画展 後北条氏と河越城

行田市郷土博物館

- ・第18回テーマ展はにわ 一酒巻古墳群の世界一
- ・開館20周年記念 第21回企画展 忍城主成田氏

熊谷市立熊谷図書館 美術、郷土係

- ・郷土を愛した三人の美術教師 新井信一・小島恭三・古澤正守
- ・熊谷市指定文化財一覧表
- ・一市3町合併記念－新市誕生・指定文化×2

栗橋町教育委員会

- ・地誌 栗橋町史資料1

埼玉県立川の博物館

- ・かわはく No.28～31
- ・埼玉の名水

埼玉県立さきたま史跡の博物館

- ・館報 第2号

- ・最新出土品展―地中からのメッセージ―
- ・武蔵埼玉 稲荷山古墳 史跡埼玉古墳群 稲荷山古墳発掘調査・保存整備事業報告書

埼玉県立自然の博物館

- ・埼玉県立自然の博物館研究報告 第1号
- ・平成18年度特別展 巨大昆虫の世界
ーようこそトロピカルワールドへー
- ・埼玉県立自然の博物館ニュースレター 潯
第1号～6号
- ・自然史百科 93～96

埼玉県立嵐山史跡の博物館

- ・歩いて廻る「比企の中世・再発見」
- ・3館連携シンポジウム 後北条氏の城―合戦
と支配―

リーフレット

- ・菅谷城跡
- ・小倉城跡
- ・松山城跡
- ・杉山城跡

埼玉県立歴史と民俗の博物館

- ・平成19年度要覧
- ・博物館発 小さな旅 埼玉遊覧案内
- ・埼玉県立歴史と民俗の博物館紀要 第2号
- ・埼玉県立博物館だより THE A
MUSEUM Vol.2-1（通巻第4号）～Vol.2-3
（通巻第6号）
- ・展示ガイド
- ・特別展図録 日本の色彩 藍・紅・紫
- ・埼玉県民俗工芸調査報告書 埼玉の注染

さいたま市立博物館

- ・第19回企画展 児玉南柯―唐船漂着事件と
遷喬館―
- ・いろいろあるんだなあ、郷土玩具

さいたま文学館

- ・靴が鳴る♪ ～清水かつらと埼玉の童謡～
- ・館報 第10号
- ・文のひびき筆のしらべーさいたま文学館 館

蔵名品選ー

- ・鉄道のある情景ー文学が描いた埼玉の鉄道ー
戸田市立郷土博物館

- ・郷土博物館だより vol.35

- ・戸田市立郷土博物館要覧 2007年度版（平
成18年度事業報告）
- ・平成19年度企画展 荒川水系の伝統漁撈
- ・第23回特別展 真夏の夜の華～戸田橋花火
大会の歴史をひもとく～

日本工業大学 工業技術博物館

- ・工業技術博物館ニュース No.66・67
- ・第10回 歴史的価値のある工作機械の顕影
募集要項

鳩山町教育委員会

- ・鳩山町史1 鳩山の歴史 上
- ・文化財だより 第26号
- ・鳩山町史編さん調査報告書第10集 鳩山の遺
跡・古代窯業
- ・鳩山町埋蔵文化財調査報告第31集 今宿東遺
跡群Ⅱ―天神台遺跡第4次・天神台東遺跡第
3次発掘調査報告書―

羽生市立図書館・郷土資料館

- ・第30回特別展 身近な外来生物たち

深谷市教育委員会

深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書

- ・2006 長在家上遺跡（第二次）
- ・第41集 天神/砂田/宮ヶ谷戸遺跡
- ・第55集 島之上遺跡
- ・第69集 深谷城跡
- ・第71集 鼠／西窪
- ・第73集 森下遺跡
- ・第74集 城西遺跡
- ・第75集 幡羅遺跡Ⅰ
- ・第76集 町内遺跡Ⅶ
- ・第77集 深谷城跡（第8次～11次）
- ・第79集 熊野遺跡Ⅴ
- ・第80集 下道南遺跡

- ・第81集 白山遺跡Ⅱ
- ・第82集 熊野遺跡Ⅵ
- ・第83集 熊野遺跡Ⅶ・お手長山古墳
- ・第84集 熊野遺跡Ⅶ
- ・第85集 深谷市内遺跡ⅩⅣ
- ・第86集 塚東遺跡Ⅱ
- ・第87集 白山遺跡Ⅲ
- ・第88集 幡羅遺跡Ⅱ－正倉跡の調査（2）－
富士見市立難波田城資料館
- ・平成19年度春季特別展 富士見の修験道－
十玉院と般若院－
富士見市立水子貝塚資料館
- ・平成19年度企画展図録 縄紋多種彩ター土
器を飾るパターン－
ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館・大井郷土
資料館
- ・資料館通信 第60号
- ふじみ野市立大井郷土資料館
- ・平成19年度企画展図録 中世のムラ-人々の
暮らしと信仰-
- ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館
- ・第22回特別展 東京第一陸軍造兵廠の軌跡
- 美里町教育委員会
- 美里町遺跡発掘調査報告書
- ・第18集北谷戸遺跡・下道堀遺跡・上耕地遺
跡
- 宮遺跡発掘調査会
- ・氷川神社裏古墳宮遺跡－第3次発掘調査－
- 宮代町郷土資料館
- ・平成19年度特別展 宮代の縄文土器～縄文
後期の形と文様～
- 三芳町立歴史民俗資料館
- ・展示解説シート 須恵器の里みよし－新開遺
跡発掘30年－
- 寄居町遺跡調査会
- 寄居町遺跡調査会報告
- ・第28集 中小前田2遺跡（第3次・第6次・第

8次）

- ・第29集 赤浜牛無具利遺跡
- ・第30集 金嶽遺跡
- ・第31集 不動寺遺跡
- ・第32集 富田庚申塚遺跡（第6次）

立正大学大学院地球環境科学研究科オープンリ
サーチセンター

- ・立正大学 文部科学省学術研究高度化推進事
業 オープンリサーチセンター（ORC）整
備事業報告書

蕨市立歴史民俗資料館

- ・蕨市立歴史民俗資料館紀要 第5号
- ・第27回特別展 江戸の粋 伝統工芸「江戸
扇子」
- ・第18回平和祈念展 15年戦争の記憶 戦
中・戦後のくらし

＜千葉県＞

市立市川考古博物館

- ・市立市川考古博物館館報 第34号

伊能忠敬記念館

- ・伊能忠敬記念館館報 第5号

国立歴史民俗博物館

- ・れきはくにいこうよ 教育関連活動報告
2006

城西国際大学物質文化研究センター

- ・物質文化研究 第4号

＜東京都＞

(株)三菱総合研究所

- ・平成19年度文部科学省委託 地域と共に歩
む博物館育成事業 博物館における施設管
理・リスクマネジメントガイドブック 基
礎編

(財)渋沢栄一記念財団

- ・青淵 第698号～709号
- ・王子・滝野川と渋沢栄一－住まい、公の

場、地域ー

(財)日本博物館協会

- ・イギリス博物館の現状と課題
- ・自然観察玉手箱100 2006年度版
- ・博物館研究Vol.142No.4 (通巻466号) ～ Vol.143No.4 (通巻478)
- ・博物館の経営・運営指標 (ベンチマーク) 報告書ー評価システム導入版・詳細版の開発ー博物館の望ましい姿シリーズ
- ・9 誰にもやさしい博物館づくり事業 外国人対応
- ・10 誰にもやさしい博物館づくり事業 バリアフリーのために
- ・11 誰にもやさしい博物館づくり事業 高齢者プログラム
- ・12 誰にもやさしい博物館づくり事業 欧米における博物館のアクセシビリティに関する報告書

(社)日本ユネスコ協会連盟

- ・ユネスコ世界遺産年報2008 No.13

NPO法人国際縄文学協会

- ・縄文 第16号
- ・BULLETIN OF THE INTERNATIONAL JOMON CULTURE CONFERENCE Vol.2 2006

板橋区立郷土資料館

- ・板橋区立郷土資料館年報ー18・19合併号ー板橋区立郷土資料館紀要ー第16号ー
- ・平成19年度秋季特別展時代を拓いた男と女ー考古学者・和島誠一と高群逸枝・平塚らいてう・市川房枝

お札と切手の博物館(国立印刷局博物館)

- ・お札と切手の博物館ニュース Vol.23

学習院大学 学芸員資格取扱事務局

- ・学芸員Bulletin For Curator's CourseNo.11

学校法人 女子美術大学

- ・女子美 No.157～159

國學院大學校史資料課

- ・校史 Vol.19

国立科学博物館

- ・milsil 自然と科学の情報誌 第1巻第1号 (通巻1号)、第1巻第2号 (通巻2号)

駒澤大学禅文化歴史博物館

- ・駒大史ブックレット6
- ・考古資料展2「やきものの考古学」図録 駒澤大学禅文化歴史博物館所蔵の陶磁器
- ・開館5周年記念展示禅林墨蹟と水芭蕉曼陀羅
- ・駒澤大学禅文化歴史博物館所蔵品目録 絵画・墨蹟論2

実践女子学園 香雪記念資料館

- ・実践女子学園香雪記念資料館館報 第4号 (平成18年度版)

品川歴史館

- ・品川歴史館特別展 大森貝塚発掘130周年・区政60周年記念事業 日本考古学は品川から始まったー大森貝塚と東京に貝塚ー

渋沢史料館

- ・渋沢研究 第19号・20号
- ・渋沢史料館報 2003年度～2005年度
- ・渋沢史料館だより No.1～No.264

社会法人 霞開館

- ・図録 お伊勢さんと武蔵

全国博物館にける地域子ども教室推進事業運営協議会

- ・平成18年度地域子ども教室推進事業報告書

大東文化歴史資料館

- ・大東文化歴史資料館だより 第2号

玉川大学教育博物館

- ・博物館ニュース「集」 28号～30号
- ・玉川大学教育博物館館報 第4号・第5号
- ・掛図にみる教育の歴史

- ・玉川大学博物館紀要 第5号

東京家政学院 生活文化博物館

- ・東京家政学院生活文化博物館年報 第17号

- ・秋季特別展 伝えたい、私の風景-模型でめぐる世界のくらし-

日外アソシエーツ

- ・大学博物館事典ー市民に開かれた知とアートのミュージアムー

日本古鐘研究会

- ・日本古鐘研究会機関紙 梵鐘 第20号

眞鍋孝志氏

- ・改訂増補 慶長以前鰐口・雲版年表稿 付鰐口鋳物師一覧 朝鮮金鼓
- ・梵鐘探究余滴

明治大学博物館事務室

- ・明治大学博物館年報 2005年度、2006年度
- ・明治大学博物館研究報告 第12号

明治大学校地内遺跡調査団

- ・明治大学校地内遺跡調査団年報4

文部科学省生涯学習政策局社会教育課

- ・「新しい時代の博物館制度の在り方について」「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」報告書

立正大学経営学会

- ・立正経営論集 第39巻 第1・2合併号

(株)文化環境研究所

- ・文環研レポート No.24・25
- ・Cultivate 第30号・31号

地域文化デジタル化推進協議会

- ・地域文化遺産 Vol.3

<神奈川県>

女子美術大学美術館

- ・女子美術大学美術館年報 平成16年度、平成17年度

大磯町郷土資料館

- ・REPORTー大磯町郷土資料館だよりーNo.27・No.28
- ・松本順没後100周年記念展 大磯の蘭疇ー松本順と大磯海水浴場ー

- ・年報 平成17年度・平成18年度

- ・ワークショップ“草と木の調査”活動報告書県立大磯城山公園の植物

<富山県>

富山市教育委員会 埋蔵文化財センター

- ・富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 第8号 富山市の遺跡物語
- ・野田・平榎遺跡 野中新長幅遺跡 宮条南遺跡 高島島浦遺跡

富山市埋蔵文化財調査報告

- ・14 富山市小出城跡発掘調査報告書
- ・17 金屋南遺跡発掘調査報告書IV
- ・19 富山城跡試掘確認調査報告書
- ・20 富山市内遺跡発掘調査概要II

富山市考古資料館

- ・富山市考古資料館報 No.44
- ・富山市考古資料館紀要 第26号

<福井県>

あわら市教育委員会

あわら市埋蔵文化財調査報告

- ・第1集 南稻越遺跡

<静岡県>

東海大学社会教育センター

- ・海のはくぶつかん Vol.137No.2 (通巻214) ~Vol.138No.1 (通巻217)
- ・東海大学社会教育センター年報 No.34

<愛知県>

南山大学人類学博物館

- ・南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2006年度年次報告書
- ・南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2006年度年次報告書 付編 研究会・シンポジウム資料
- ・南山大学人類学博物館年報 2006年度

<三重県>

松阪市教育委員会

松阪市埋蔵文化財報告書

- ・ 2 2005年度松阪市埋蔵文化財発掘調査報告
伊勢寺遺跡5次・中林・中道遺跡2次・中
林・中道遺跡3次・天王山遺跡2次・上野垣
内遺跡2次・貝蔵遺跡5次・滝之川石切り場
跡・西肥留遺跡4次・小津遺跡2次
- ・ 5 2006年度松阪市埋葬文化財発掘調査報告
茶屋前遺跡・権現角遺跡・鴻ノ木遺跡（第7
次）

<京都府>

同志社大学歴史資料館

同志社大学歴史資料館調査研究報告

- ・ 第7集 同志社大学校内遺跡発掘調査報告書
（2003・2005年度）
- ・ 同志社大学歴史資料館 館報 第10号

<愛媛県>

（財）松山市埋蔵文化財センター

- ・ 愛比売 平成18年度年報
- ・ 紀要愛媛 第7号

<高知県>

高知県立歴史民俗資料館

- ・ 岡豊風日（高知県立博物館だより） 第59
号～63号
- ・ 高知県立歴史民俗資料館年報 平成18年度

<福岡県>

筑紫野市教育委員会

筑紫野市文化財調査報告書

- ・ 第91集 永岡岸元遺跡

九州産業大学美術館

- ・ ウィリアム・モリス ケルムソコット・プレ
ス 完全本

<長崎県>

長崎歴史文化博物館

- ・ ビジュアル百科事典 川原慶賀の見た江戸
時代の日本（Ⅰ）「オランダと日本の慶賀作
品」（DVD-ROM）

<熊本県>

国立大学法人 熊本大学 五高記念館

- ・ 第五高等学校－熊本大学五高記念館図録

<鹿児島県>

鹿児島大学総合研究博物館

- ・ 鹿児島大学総合研究博物館 News Letter
No.15・No.16
- ・ 鹿児島大学総合研究博物館年報 No.5

立正大学博物館年報 6

(平成19〈2007〉年度)

平成20(2008)年9月30日 発行

編集・刊行 立正大学博物館

〒360-0161 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL. 048-536-6150 FAX. 048-536-6170

E-mail : museum@ris.ac.jp

<http://www.ris.ac.jp/museum/>

(印刷 光写真印刷株式会社)